

日仏共同研究「人口の高齢化とその社会経済的影響」

日仏会館フランス事務所と財団法人年金総合研究センターは上記テーマの共同研究として、6回の講演会とセミナーを行うことを予定している。第1回講演会は1995年9月27日(水)、日仏会館において以下のように行われた。

岡崎陽一(元日本大学)「人口構造と高齢者扶養—歴史的变化」

André Burguière, EHESS(国立社会科学高等研究院)“La dette entre génération dans le cycle de vie familiale; une mise en perspective historique”(世代間の相互依存: 歴史的考察—家のサイクルのなかでの世代間関係)

また、第1回セミナーが「家、家族、世帯の歴史的研究」をテーマとして9月29日(金)同会館にて行われ、以下の報告と討論が行われた。

齊藤修(一橋大学)「比較史的にみた日本の直系家族世帯」

André Burguière, “Droit et pratique de l'adoption en France: du XVe siècle au temps présent”(フランスにおける養子の法と実態: 15世紀から現代まで)

座長: 速水融(麗澤大学)

なお、出席者は以下の通り。石原正令(関東学園大学)、伊部英男(年金総合研究センター)、岡崎陽一、岡田あい(帝京大学)、落合恵美子(国際日本文化研究センター)、高木正朗(立命館大学)、友部謙一(徳山大学)、中山和之(厚生年金基金連合会)、廣嶋清志、藤井良治(千葉大学)、吉田功(年金総合研究センター)。

(廣嶋清志記)

ヨーロッパ人口会議

ヨーロッパ人口会議は、イタリア国ミラノ市において1995年9月4日～9月8日の期間開催された。人口問題研究所からは、廣嶋清志、渡邊吉利、大場保の3名が出席した。日本からはほかに、前人口問題研究所長の河野稠果麗沢大学教授が参加した。

会議は8セッションに分割され、各セッションには全体会議(plenary session)のほかにそれぞれ3つ前後のサブ・セッションがあり、各サブ・セッションにおいて3名～5名程度の個別研究報告とコメント、フロアを含めた討議が行われた。なお、全体会議の報告は当日の口頭報告の外に、原則として、会議当日に配布されたヨーロッパ人口学会(EAPS)と国際人口学会(IUSSP)共編の『ヨーロッパ人口の発展あるいは変革』(Evolution or Revolution in European Population)と題する本に収録されている。これら正規のセッションのほかに、非公式セッションとしてイタリア人口学会および歴史人口学会の共催により乳・幼児死亡のセッションが行われた。各セッション・テーマとサブ・セッションの具体的リストは以下の通り。

Theme I Family formation and the first phase of the life course.

Plenary I Becoming parent in Europe, by John Hobcraft and Kathleen Kiernan (United Kingdom).

I. 1 Family and Fertility Surveys: National Findings and Crossnational Comparisons.

I. 2 Family Formation and Union Stability.

I. 3 Status of Women and Parental Strategies.

Theme II Stratification and Mobility.

Plenary II From State to Market Economy: The Population Dimension, by Jersy Holzer (Poland).

II. 1 The Demography of Religious and Ethnic Groups.

II. 2 Regional Population Dynamics.

II. 3 Social Structure and Mobility.

Theme III International Mobility.